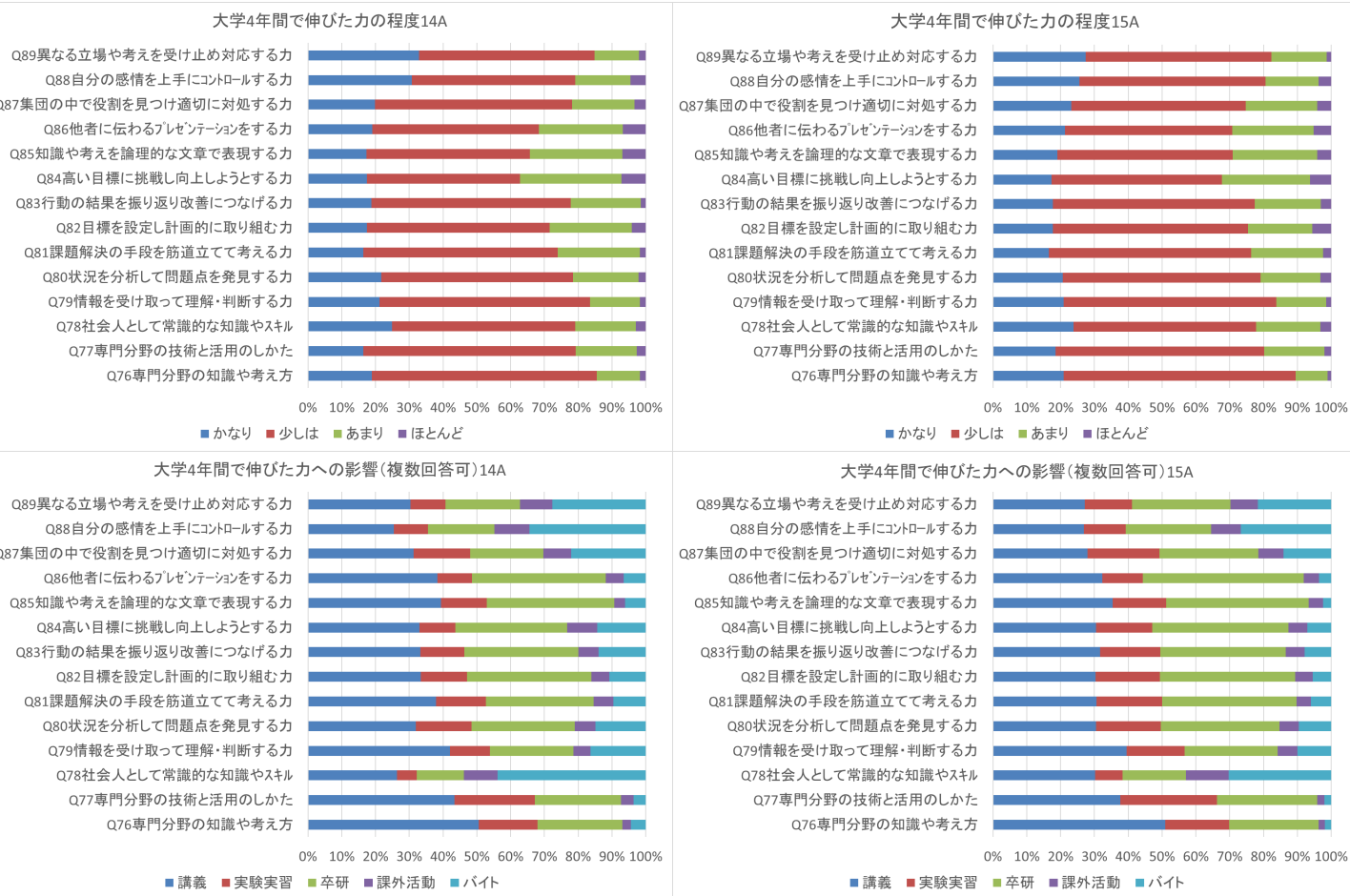


卒業生アンケート結果の分析2019～大学4年間で身に付いたり伸びたりした力

2014年度から本格的に開始した教育改革の成果を検証する目的で、2018年3月卒業生(2014年度入学者)から、従来おこなっていた卒業生アンケートに設問を追加した。その内容はディプロマポリシーを具体化した「卒業までに身に付け伸ばすべき8つの力」と対応させ、それぞれ「大学4年間でどれくらい伸びたか」および「伸ばしたものについて大学生活におけるどのような活動で伸ばたと感じているか」を回答してもらった。アンケートは卒業式終了後に紙面(無記名)でおこなっており、回収率はほぼ100%である。

以下に、これまでに得られた2年間の結果を整理し、比較した4つの図を示した。左列が2014年度入学者、右列が2015年度入学者の結果となっている。



まず上段左右のグラフを比較すると、全体の傾向が入学年度によらずほぼ同様となっていることがわかる。ポジティブな回答＝かなり伸びた＆少しは伸びた＝の割合は2014年度が62～85%、2015年度が68～90%と、2015年度の方がやや高くなっている項目が多い。次に、下段のグラフを見ると、やはり全体の傾向は非常に似通っており、その中でも2015年度入学者の方がアルバイトを選ぶ率が全体に減っていることが見て取れる。一方で、多くの項目で、実験実習を選ぶ率が高くなっていることがわかる。

リクルート進学総研がおこなっている調査の結果(※1)では、理系学生で成長実感があるとする率が77.4%であり、本学の全体平均とほぼ同程度である。また、身に付いた力を項目別に問う設問では、社会人12の基礎力について選択率が9.7～25.4%となっており、本学の結果で「かなり身に付いた」の選択率と同程度、「少しは身に付いた」まで含めれば本学卒業生を選択率はかなり高いものといえる。さらに、その能力が身に付いた機会(複数回答)については、対応する選択肢の結果のみを抽出して上記のグラフと同様に整理したところ、全体平均で授業20.9%、課外活動25.7%。となり、本学の結果とかなりの違いが認められた。

これらの結果に見られる変化や特徴が本学の特色ある教育の成果といえるかについては、学年ごとにおこなっているアンケートの結果なども併せて、今後さらに検証を進めていきたい。

※1 <http://souken.shingakunet.com/research/2015/06/post-20d7.html>